



安全上の注意

- 取り付けの前に、この「安全上の注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。
 - ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を示すために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- △警告**：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。
- △注意**：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。
- お守りいただく内容の種類を次の総表示で区分し、説明しています。
- 緑表示の例
- 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
- 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中や具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

- △警告**
- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
 - 交流 100V 以外では使用しないこと
 - レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
 - アースを確実に取り付けること
 - 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること
- △取付注意**
- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
 - 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
 - レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること
 - 自然換気型のストップを使用するときは、空気の取入口（給気口）により十分給気される配慮すること
- △取付禁止**
- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板が電気的に接触しないよう取り付けること
 - レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること
 - 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること

- △注意**
- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと
 - 周囲温度が 40°C 以上になるところには取り付けないこと
 - 運転中は、指や物を絶対に入れないこと
- △取付注意**
- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること
 - レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
 - 部品の取り付けは確実におこなうこと

取り付け上のお願い

● 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。

- ・大工事【設置のための下地工事等】
- ・配線工事【コンセントの設置、コンセント・コネクタ・利用以外の配線接続等】
- ・管工事【ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等】

流通業者（販売店）を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。

● ダクトの不燃処理について

- ・ダクトを 50mm 以上の不燃材料、または 20mm 以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
- ・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」、「検査要領書」に従ってください。
- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。
- 調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出さず設置しないでください。捕集性能が低下します。
- 屋外壁面の排気出口に取り付けるペントキャップまたはパイプの通気抵抗は 400m³/h 時 50Pa 以下のものをご使用ください。
- 防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。

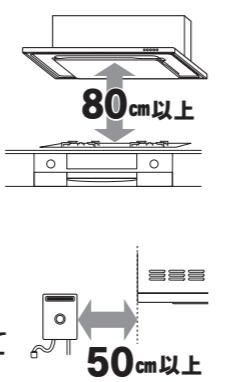
● 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気性能をいちじるしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。

- レンジフード取付面の補強部に、取付用座ねじが確実に届くことを確認してください。本体の取付用座ねじは 45mm の長さのものが同梱されておりますが、壁下地に石膏ボード等が貼られている場合は、石膏ボード等の厚さを確認し、取付用座ねじが確実に補強部に届くことを確認してください。

また、レンジフード本体取付面には必ず不燃材を使用してください。

- レンジフードは調理機器の真上に取り付けてください。なお、レンジフード取付高さは、レンジフードの下端が調理機器の真上 80cm 以上になるようにしてください。
- レンジフード下部には、湯沸器を対角に取り付けないでください。
- 汚れを除去する際は、シンナー等の有機溶剤を使用しないでください。
- 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けること

火災・故障の原因になります。

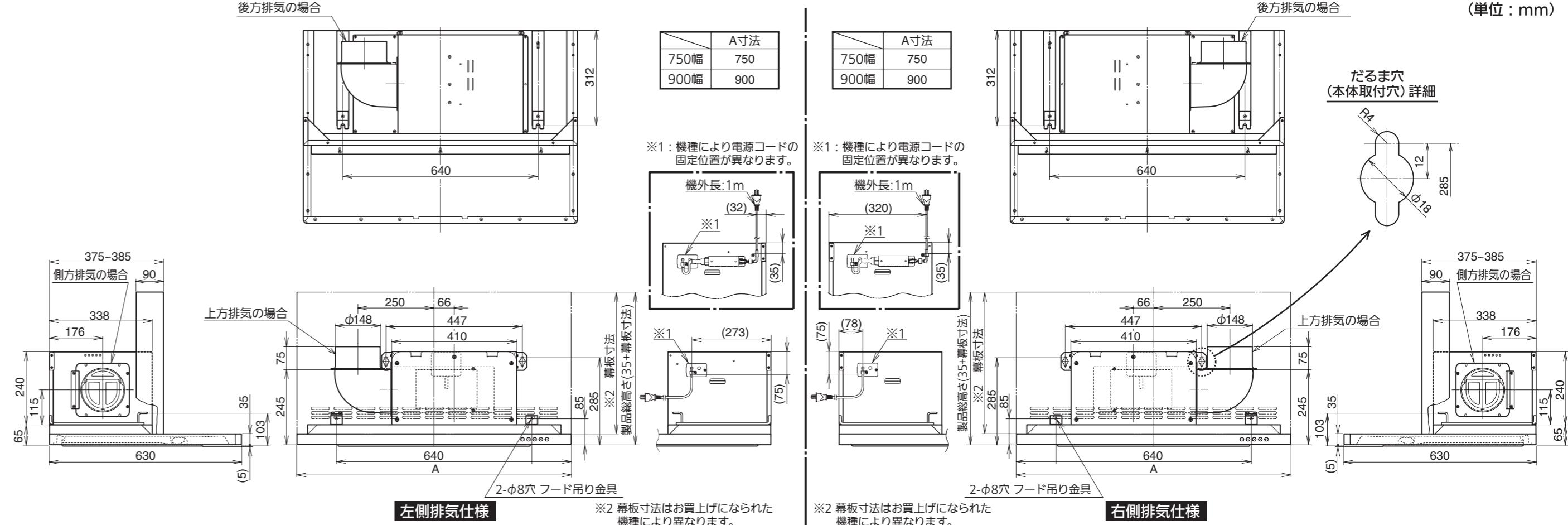
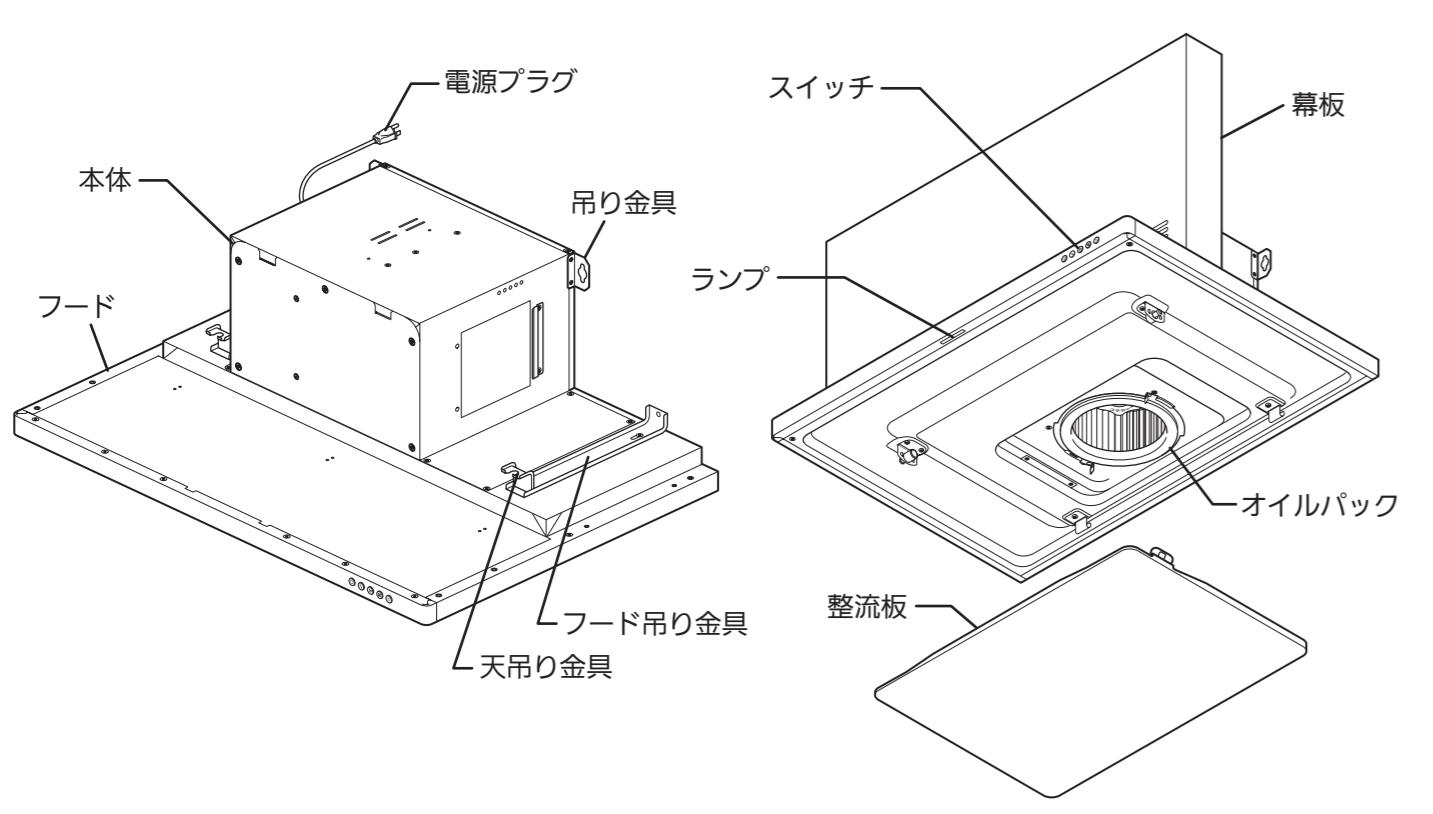


80cm 以上

50cm 以上

50cm 以上

各部のなまえ



付属品

● 座ねじ（φ 5.1 × 45）4 本
本体の取り付けに使用します。

● ト拉斯ねじ（M4 × 6）3 本
幕板の固定に使用します。

● 段付ねじ（M4 × 12）4 本
排気口と L 形ダクトの取り付けに使用します。

● L 形ダクト 1 個
上方・後方排気のときに排気口と組み合わせて使用します。

● 排気口 1 個
本体とダクトの接続に使用します。逆風防止シャッター付きです。

● 幕板 1 個
本体正面の目隠しに使用します。

1. 付属品の確認

△注意

- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること
- 鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります



付属品を確認します。

梱包箱から付属品を取り出し、上部中央の付属品一覧により不足がないか確認します。

お願い

- ・取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。
- ・保護用のクッション材と固定テープは「7. 取扱説明書およびオイルパック固定テープの取りはずし」まではすきなでください。
- ・床で作業する場合、本体および床にキズを付けないため、必ずシートを敷いた上で作業をおこなってください。

2. 本体の準備

● 事前に取り付けた吊りボルトにフランジ付き六角ナットを取り付けます。

（図 2-1）
吊りボルト上側のフランジ付き六角ナットの位置（天吊り金具取付位置）は製品寸法図を参考にあらかじめセッティングしておくと後作業が容易になります。

※ 吊りボルトとフランジ付き六角ナットは取付作業者側で手配願います。

3. 排気方向の決定

△警告

- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板が電気的に接触しないよう取り付けます。

- 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと

- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと

詳しくは、所轄の消防署に問い合わせてください

△注意

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと
- 感電および故障の原因になります

（浴室用換気扇をお使いください）

感電および故障の原因になります

● 周囲温度が 40°C 以上になるところには取り付けないこと

火災・故障の原因になります

△注意

- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること

（手袋をする）

△取付注意

- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること

（手袋をする）

△取付禁止

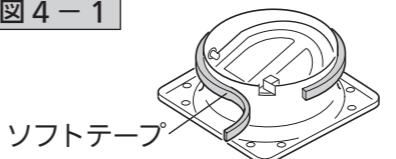
- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること

（手袋をする）

4. 排気用部品の準備

以下は右側排気の場合を示します。左側排気の場合は左右対称として見てください。

- 排気口に付属品のソフトテープを貼り付けます。（図 4-1）



● 排気口と L 形ダクトの接続

- 上方排気・後方排気の場合（図 4-2）

排気口に付属品の段付ねじ（M4 × 12）4 本で L 形ダクトに取り付けます。

お願い

排気口を取り付ける際は、シャッターの開く向きに注意してください。

誤った取り付けの場合、排気不良や異音の原因になります。

- 側方排気の場合

L 形ダクトは使用しません。排気口のみ準備してください。

排気口と本体の接続

- 後方排気の場合

排気口と本体の接続は、「6. ダクトと排気用部品の接続」（裏面（図 6-3））でおこないます。

- 上方排気の場合（図 4-3）

排気口を取り付けた L 形ダクトを本体側面の差込部に差し込み、段付ねじ 2 本で取り付けます。（段付ねじはあらかじめ本体の排気口取付部に止めてありますので、はずしてお使いください。）

お願い

排気口を取り付ける際は、シャッターの開く向きに注意してください。

誤った取り付けの場合、排気不良や異音の原因になります。

- 後方排気の場合

排気口と本体の接続は、「6. ダクトと排気用部品の接続」（裏面（図 6-3））でおこないます。

- 上方排気の場合（図 4-3）

排気口を取り付けた L 形ダクトを本体側面の差込部に差し込み、段付ねじ 2 本で取り付けます。（段付ねじはあらかじめ本体の排気口取付部に止めてありますので、はずしてお使いください。）

お願い

排気口を取り付ける際は、シャッターの開く向きに注意してください。

誤った取り付けの場合、排気不良や異音の原因になります。

- 後方排気の場合

排気口と本体の接続は、「6. ダクトと排気用部品の接続」（裏面（図 6-3））でおこないます。

- 上方排気の場合（図 4-3）

排気口を取り付けた L 形ダクトを本体側面の差込部に差し込み、段付ねじ 2 本で取り付けます。（段付ねじはあらかじめ本体の排気口取付部に止めてありますので、はずしてお使いください。）

お願い

排気口を取り付ける際は、シャッターの開く向きに注意してください。

誤った取り付けの場合、排気不良や異音の原因になります。

- 後方排気の場合

排気口と本体の接続は、「6. ダクトと排気用部品の接続」（裏面（図 6-3））でおこないます。

- 上方排気の場合（図 4-3）

排気口を取り付けた L 形ダクトを本体側面の差込部に差し込み、段付ねじ 2 本で取り付けます。（段付ねじはあらかじめ本体の排気口取付部に止めてありますので、はずしてお使いください。）

お願い

排気口を取り付ける際は、シャッターの開く向きに注意してください。

誤った取り付けの場合、排気不良や異音の原因になります。

- 後方排気の場合

排気口と本体の接続は、「6. ダクトと排気用部品の接続」（裏面（図 6-3））でおこないます。

- 上方排気の場合（図 4-3）

排気口を取り付けた L 形ダクトを本体側面の差込部に差し込み、段付ねじ 2 本で取り付けます。（段付ねじはあらかじめ本体の排気口取付部に止めてありますので、はずしてお使いください。）

お願い

排気口を取り付ける際は、シャッターの開く向きに注意してください。

誤った取り付けの場合、排気不良や異音の原因になります。

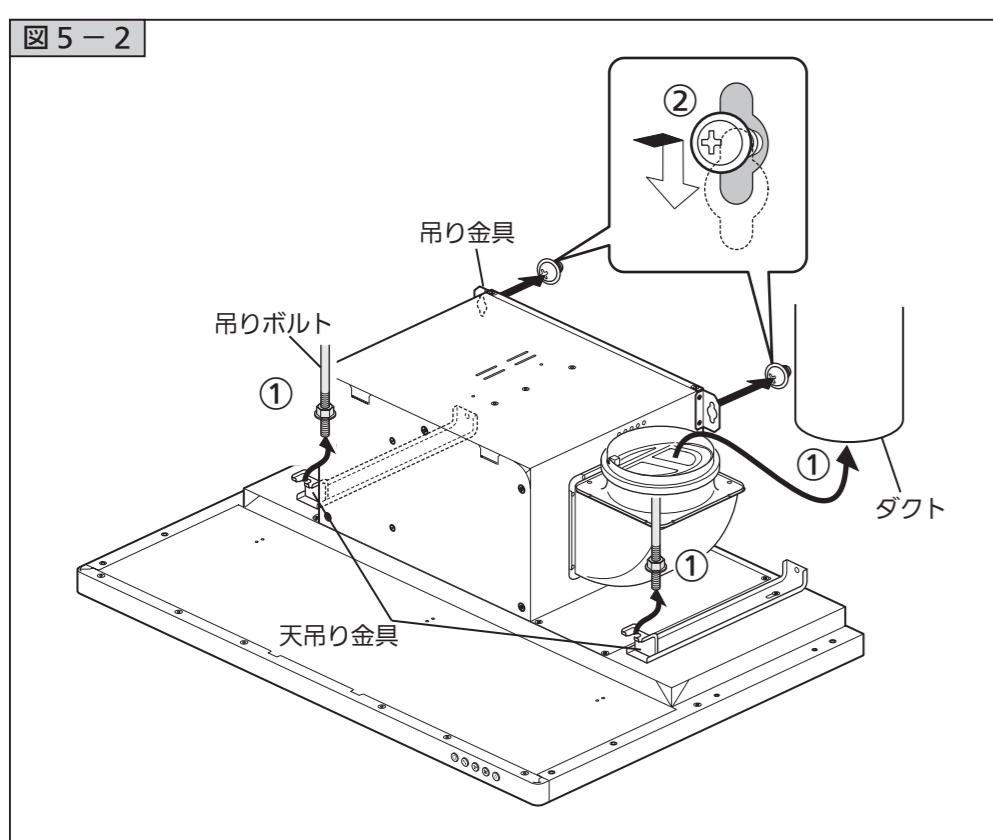
- <ul

こちら側は裏面です。必ず表面からお読みになり、正しく取り付けをおこなってください。
安全上のご注意・取り付け前の調査と準備・取り付け上のお願いは表面をご覧ください。

取り付けかた (つづき)

2 本体を壁面に引っ掛けます。(図 5-2)
本体を持ち上げて天吊り金具に吊りボルトを差し込みながら、ダクトに排気口を差し込み(①)、手順 1 で壁面に取り付けた、だるま穴用座付ねじに吊り金具を引っ掛けます(②)。

お願い
上方排気・側方排気の場合は、ダクトに排気口を差し込みながら本体を取り付けてください。

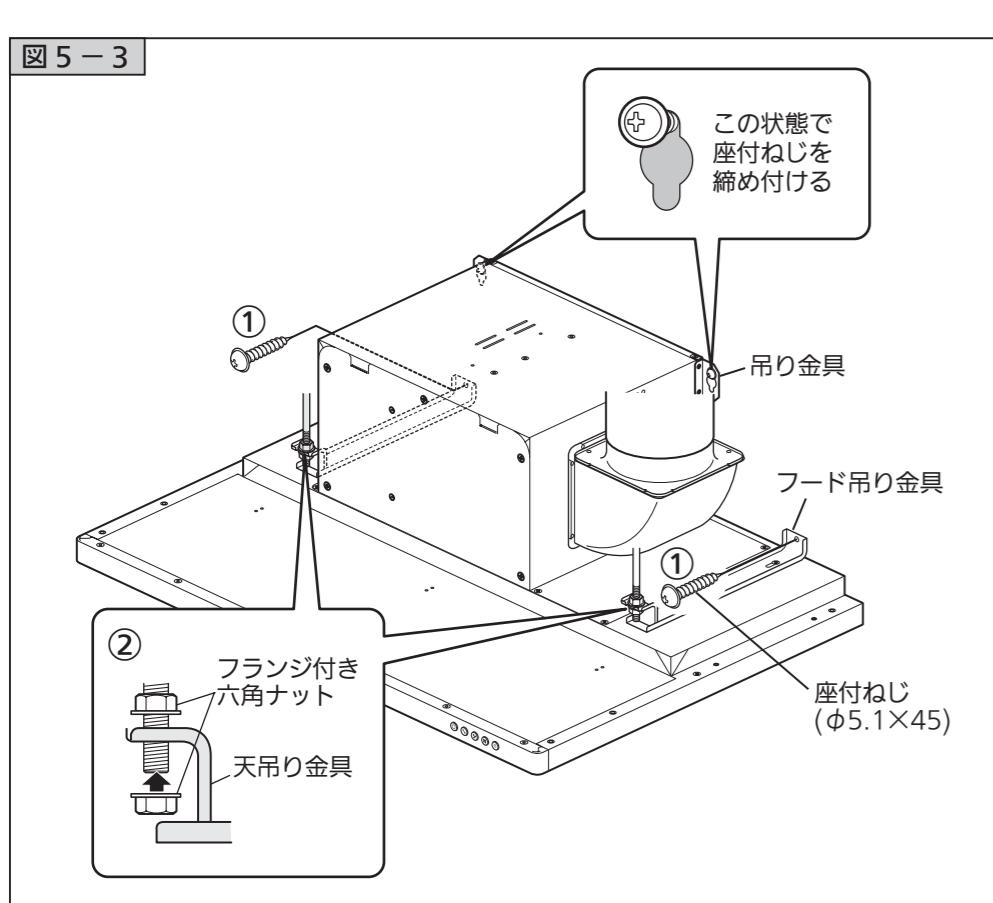


3 本体を壁面に固定します。(図 5-3)

1) 付属品の座付ねじ(Φ5.1×45)2 本でフード吊り金具を固定します(①)。
2) 天吊りボルトにフランジ付き六角ナットを取り付け、天吊り金具を挟むように締め付けます(②)。
※ フランジ付き六角ナットは取付作業者側で手配願います。

3) 吊り金具、フード吊り金具、天吊り金具の各部をそれぞれしっかりと締め付けて固定します。

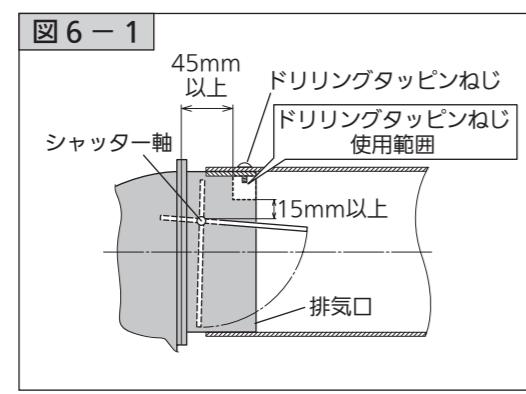
お願い
本体の水平度を確認しながら固定してください。



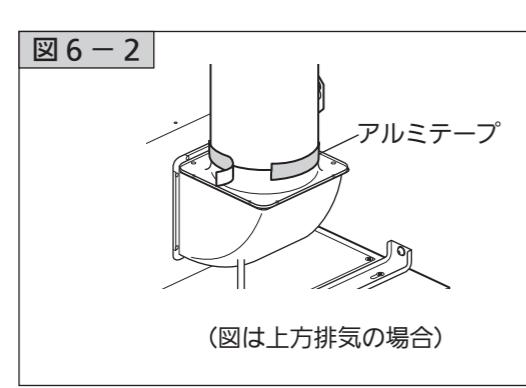
6. ダクトと排気用部品の接続

以下は右側排気の場合を示します。左側排気の場合は左右対称として見てください。

お願い
ドリリングタッピングねじなどで排気口を固定する場合は、シャッターにねじが当たらないように、図のドリリングタッピングねじ使用範囲内に固定してください。(図 6-1)



お願い
上方・側方排気の場合(図 6-2)、風漏れ防止のテープ(アルミテープ)をおこなってください。



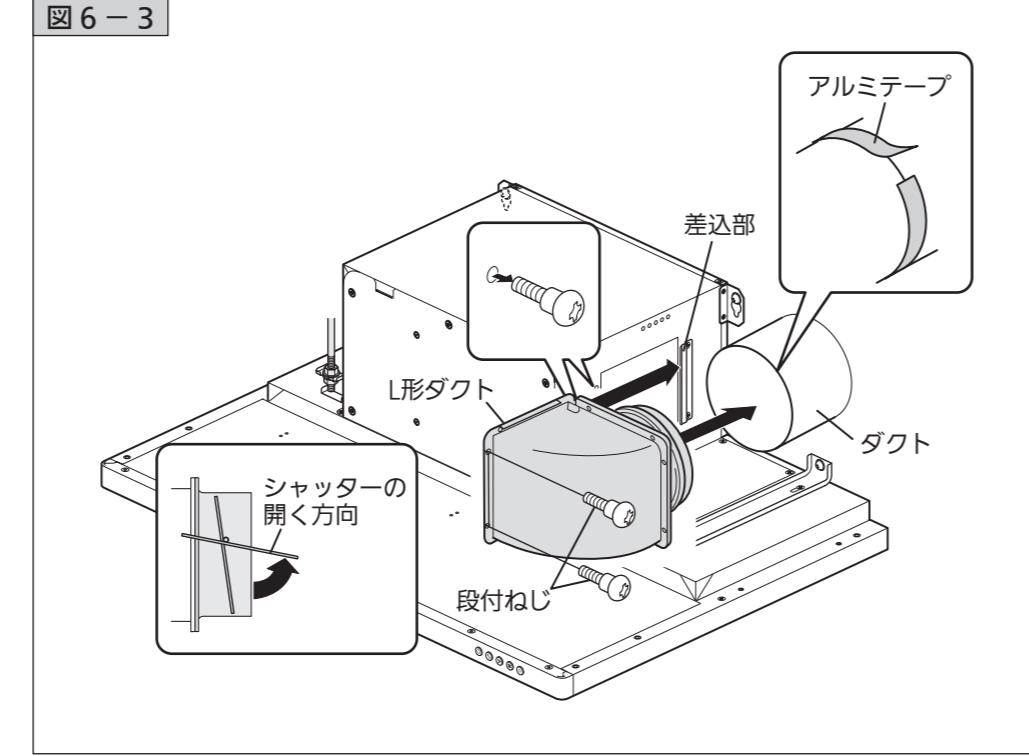
■ 後方排気の場合(図 6-3)

1 排気口をダクトに接続します。
1) 本体の排気口取付部に付いている段付ねじ 2 本をはずします。

2 L形ダクトを差込部に差し込みながら排気口をダクトに挿入し、はずしたねじ 2 本で固定します。

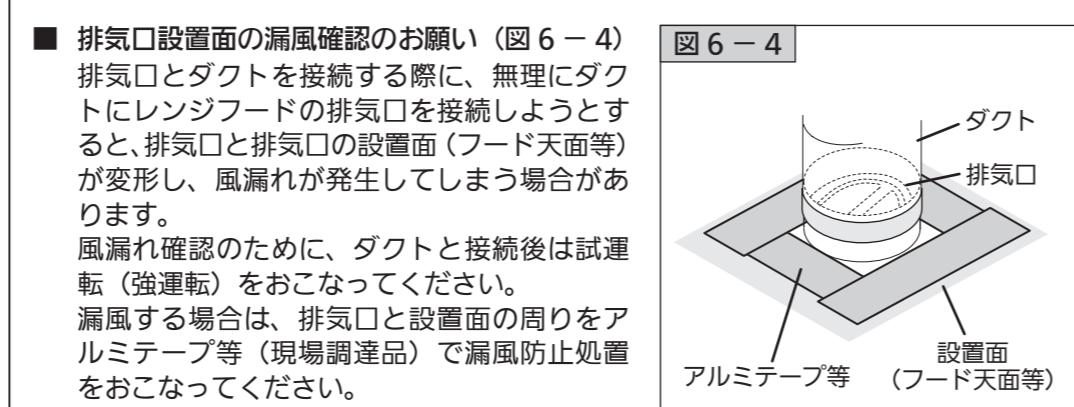
お願い
排気口を取り付ける際は、シャッターの開く向きに注意してください。
誤った取り付けの場合、排気不良や異音の原因になります。

2 風漏れ防止のテープ(アルミテープ)をおこないます。



■ 排気口設置面の漏風確認のお願い(図 6-4)

排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトにレンジフードの排気口を接続しようとすると、排気口と排気口の設置面(フード天面等)が変形し、風漏れが発生してしまう場合があります。
風漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転(強運転)をおこなってください。
漏風する場合は、排気口と設置面の周りをアルミテープ等(現場調達品)で漏風防止処置をおこなってください。



7. 取扱説明書およびオイルパック固定テープの取りはずし

- 保護用クッション材をいったん取りはずし、整流板に貼り付けてある取扱説明書をはずします。
- 付属の取扱説明書を参照して整流板を取りはずし、オイルパックを固定しているテープをはがします。
固定テープをはがした後は整流板をもとどおりに取り付けてください。

8. 電気配線

⚠ 警告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
分解・修理・改造禁止
- 交流 100V 以外では使用しないこと
火災・感電の原因になります
使用禁止
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って
法的有資格者が工事をおこなうこと
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
取付注意
- アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電するおそれがあります
アースの取り付けは販売店にご相談ください
アースを取り付ける



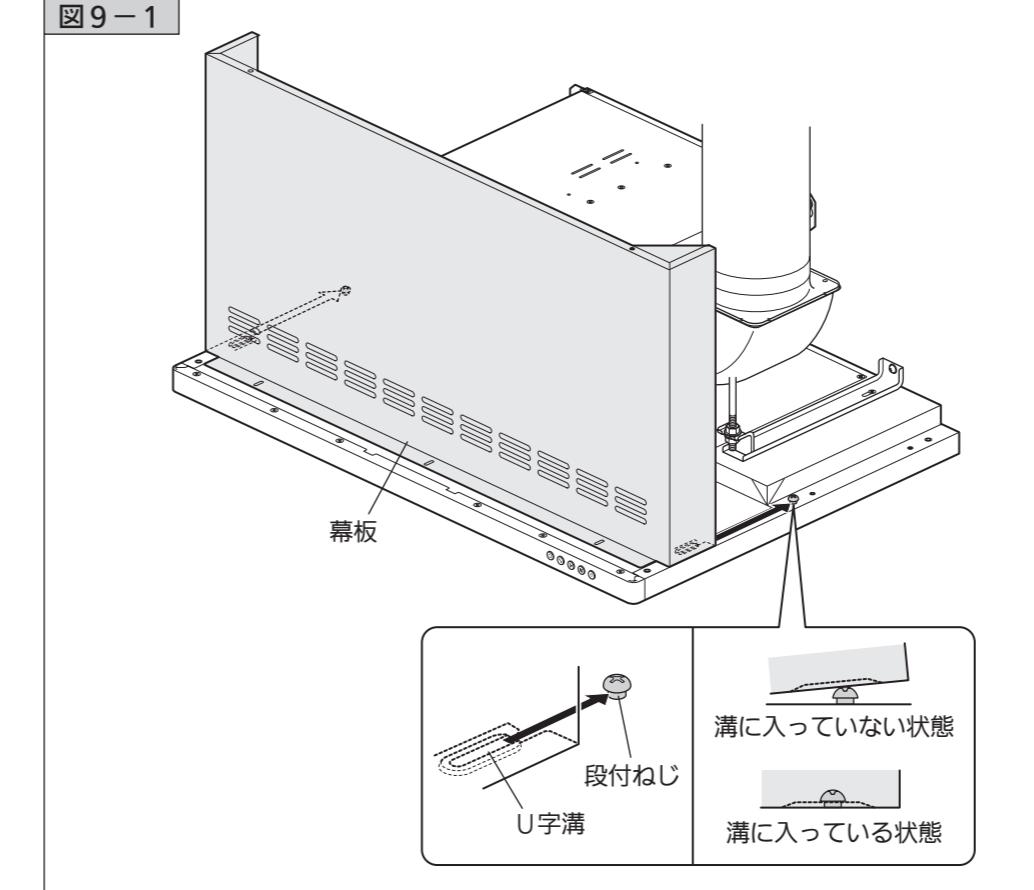
分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。

⚠ お願い

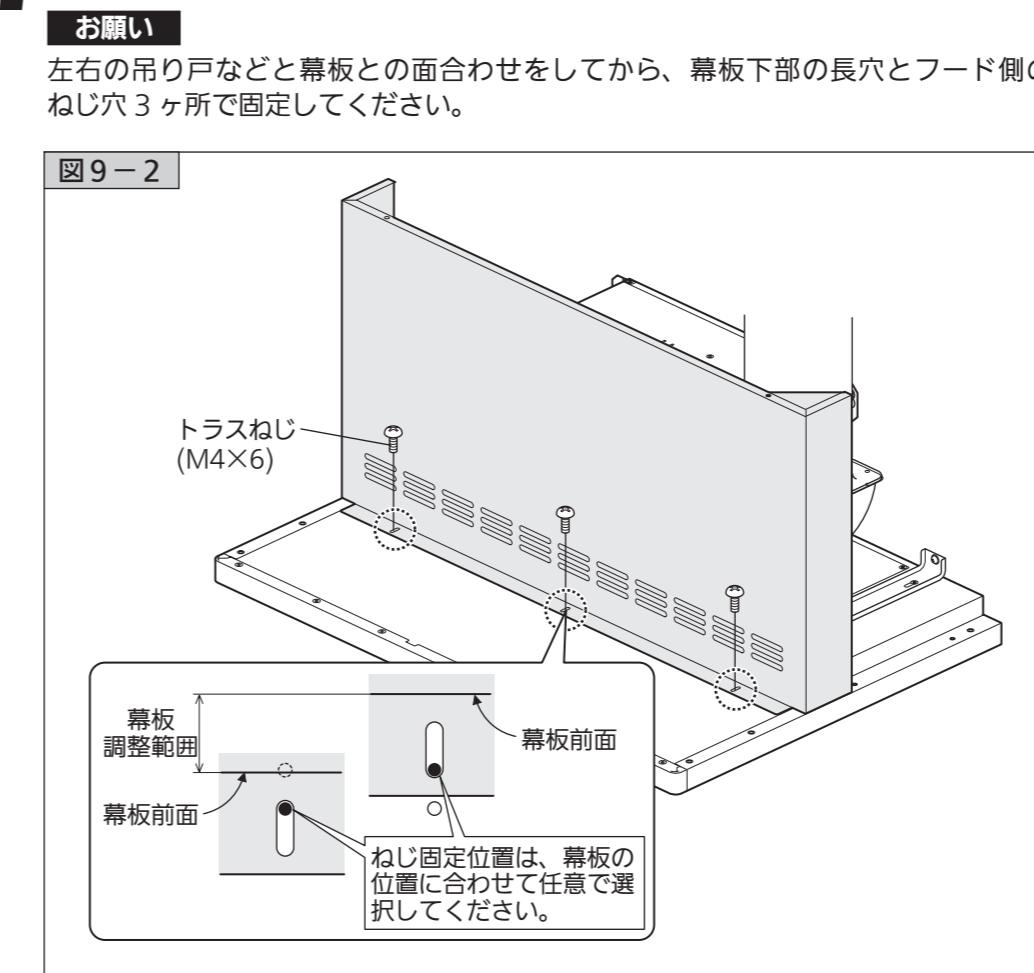
- ・電源は専用のコンセント(2極接地極付差込接続器 15A、125V)およびブレーカーを設けてください。
- ・「10. 試運転」までブレーカーは「入」にしないでください。
- ・コンセントは電源コードの長さ(機外長約 1m)を考慮し、設置してください。
必ずアース工事(D種接地工事)をしてください。

9. 幕板の取り付け

1 フード左右の取付部にあらかじめ取り付けられている段付ねじに、幕板のU字溝を差し込みます。(図 9-1)



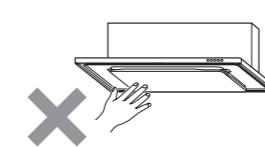
2 幕板の前側下部 3ヶ所を付属品のトラスねじ(M4×6)3 本で固定します。(図 9-2)



10. 試運転

⚠ 注意

- 運転中は、指や物を絶対に入れないこと
けがをするおそれがあります
接触禁止
- 電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。
スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
- 運転時、各速調の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。
- 异常な騒音、振動がないことを確認してください。
- 屋外の排気出口から排気され、異音がないことを確認してください。
- 取り付けまたは各種工事にて発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。
- 製品保護のため、はずした保護用のクッション材と固定テープをもとの状態に取り付けてください。



11. お客様への説明

- 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
- 取扱説明書と共に、この取扱説明書を必ずお客様にお渡しください。

【製造元】 **-FUJIOH-** 富士工業株式会社

本社・営業部 〒252-0206 相模原市中央区淵野辺2丁目1番9号

TEL 042(768)3754 (営業部)

取付補足説明書

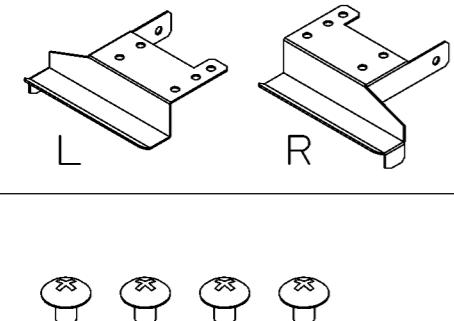
この取付書は、幕板取付用の補足説明書です。

この取付補足説明書とレンジフードの取付説明書を併せてお読みください。

1. 付属品確認

取付説明書に記載されている付属品の他に、次の部品が付属となります。

付属品



幕板押さえ金具 R/L 各1個

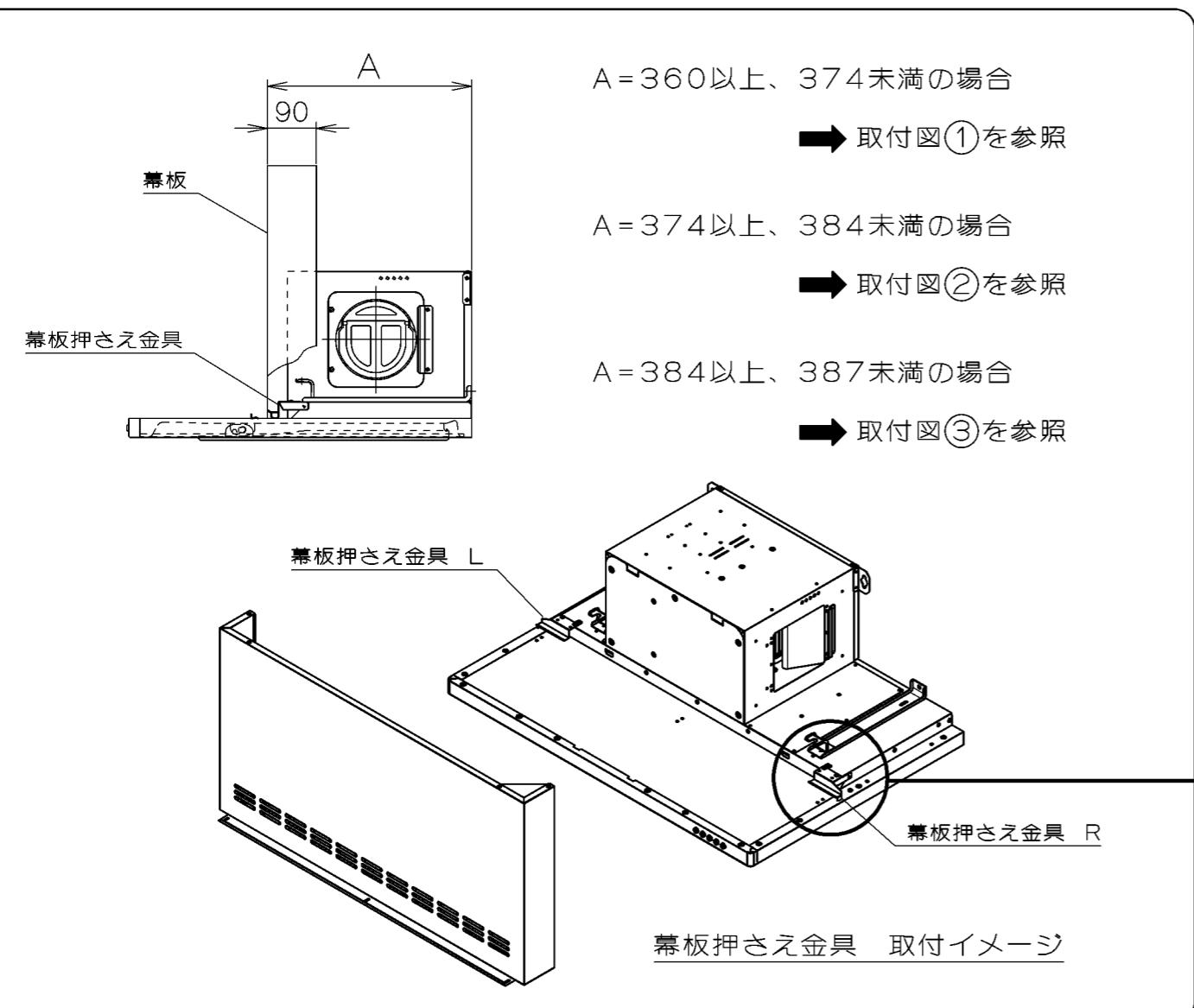
フードに固定します。

トラスねじ (M4×6) 4本

幕板押さえ金具の固定に使用します。

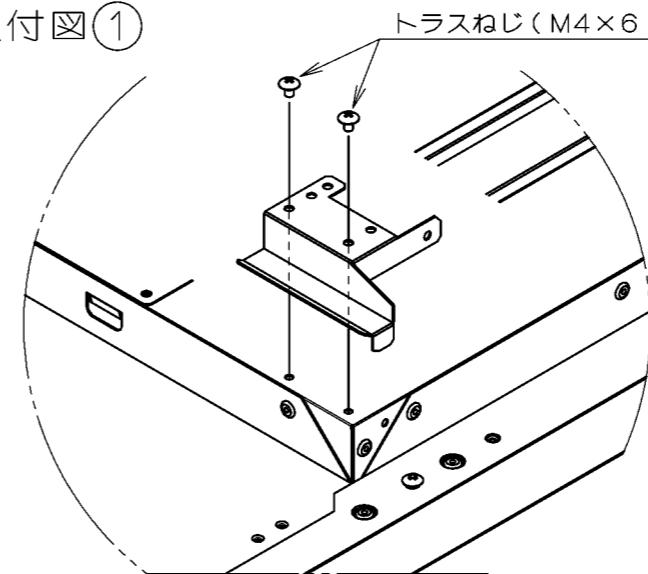
2. 幕板の取り付け位置を確認し、幕板押さえ金具の取り付け位置を決定します。

※ 幕板の位置により、幕板押さえ金具のねじ固定位置が変わります。



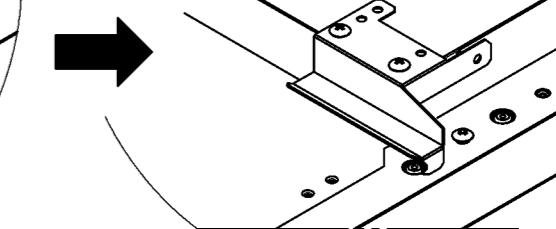
3. 幕板押さえ金具を取り付けます。（図はR側を示し、L側は対称となります。）

取付図①

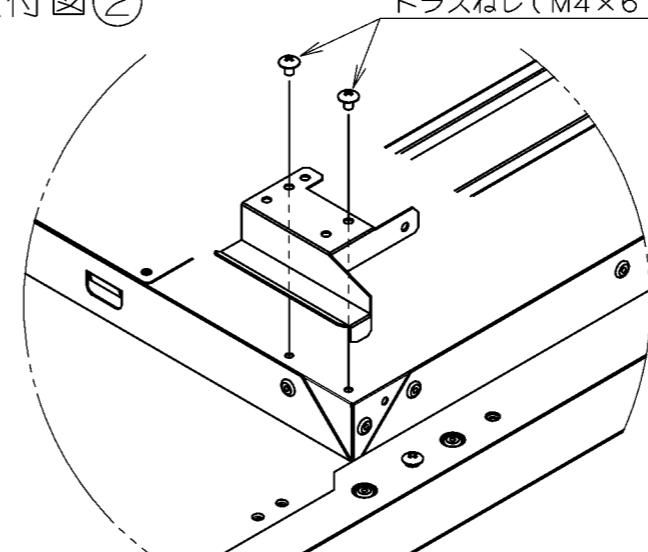


トラスねじ (M4×6)

上面手前のねじ穴を使用し
ねじ2本で固定します。

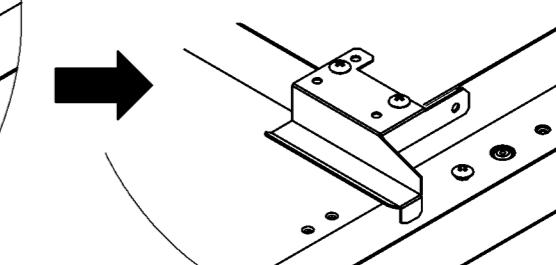


取付図②

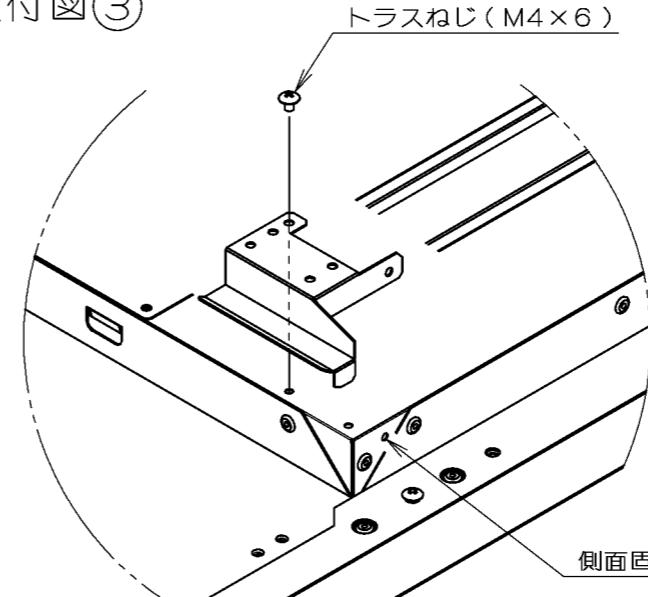


トラスねじ (M4×6)

上面手前から2列目のねじ穴を使用し
ねじ2本で固定します。



取付図③



トラスねじ (M4×6)

上面奥のねじ穴と側面のねじ穴を使用し
ねじ2本で固定します。

【お願い】

幕板押さえ金具は、レンジフードを壁面に
固定する前に取り付けて下さい。
(設置後の側面のねじ固定が難しい為)

